

登録コード	L1730500	開講年度	2026	
担当教員	塩原 佳典	副担当		
授業科目	日本史特論V			
英文授業名	Lecture of Japanese History V			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 前期 曜日・時限 金曜・2時限
講義室	人文第4講義室	遠隔授業科目		読替科目
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ			
	【2023年度以降対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】		⇔	日本近代史を研究するための調査方法や課題設定の視点が身についている。
授業で学べる「テーマ」	地域運営			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	この講義では、担当者が現在取り組んでいる主題について論じます。「近代日本の公立病院と地域社会」をテーマに、各論点をいかに設定したのか、またどこで史料を蒐集したのか、さらにそれらの史料をいかに解説したのか、といった研究のプロセスにまで踏み込んで紹介します。また、個別の事例を扱いながら、いかににより多くの人びとの関心に接続するのか、担当者の工夫についても紹介できればと考えています。 以上のことをとおして、受講者がそれぞれの問いに即した歴史研究を行うための、思考や調査の構えについて理解を深めることを目指します。			
授業計画	1. ガイダンス：授業の進め方や問題関心について 2. 公共性の歴史について何が議論されてきたか 3. 近代日本の地方行政と自治：公共性の単位を模索する 4. 医療環境史を地域社会論から問い直す 5. 明治維新期の松本藩における医師養成 6. 藩から県への移行過程にみる医学校・病院政策の転回 7. 松本公立病院の創設と地域社会の協力 8. コレラの流行と公立病院 9. 三郡共立体制の解体：病院医療をめぐる「公」の行方 10. 幕末維新期における諏訪の利用環境 11. 郡を単位とした医療圏の形成と持続 12. 明治初年の医師修業：医の近代化と在村医の進路 13. 公立病院の黎明と在村医家 14. 産業構造の転換にともなう共同性の変容 15. ふり返りとまとめ（授業評価アンケート実施）			
成績評価の方法	毎回の小レポート（30%）と期末レポートによります。			
成績評価の基準	講義の内容を理解していることを基準とし、①批判的に受け止めさらなる問いを立てている（「卓越」）、②浮かんだ疑問をまとめ述べる事ができている（「やや上にある」）、③内容を的確に理解している（「その水準にある」）とする。			
事前事後学習の内容	配布するレジュメをもとに予習と復習に取り組んでください。			
履修上の注意	この講義は、日本史（および歴史学一般）で卒論を執筆する学生を対象として行います。特に日本近代史について、概論的に理解していることを前提にしています。			
質問、相談への対応	適宜受け付けます。授業後など、気軽に質問してください。オフィスアワーは、金曜3限に設定しています。			
教科書	毎回レジュメを配布します。			
参考書	○公共性と地方自治の歴史 齋藤純一『公共性』岩波書店、2000 東島誠『公共圏の歴史的創造』東京大学出版会、2000 飯塚一幸『明治期の地方制度と名望家』吉川弘文館、2017 三村昌司『日本近代社会形成史』東京大学出版会、2021 ○医療の社会史 青木歳幸『在村蘭学の研究』思文閣出版、1998 海原亮『近世医療の社会史』吉川弘文館、2007 猪飼周平『病院の世紀の理論』有斐閣、2010 新村拓『売薬と受診の社会史』法政大学出版局、2018			